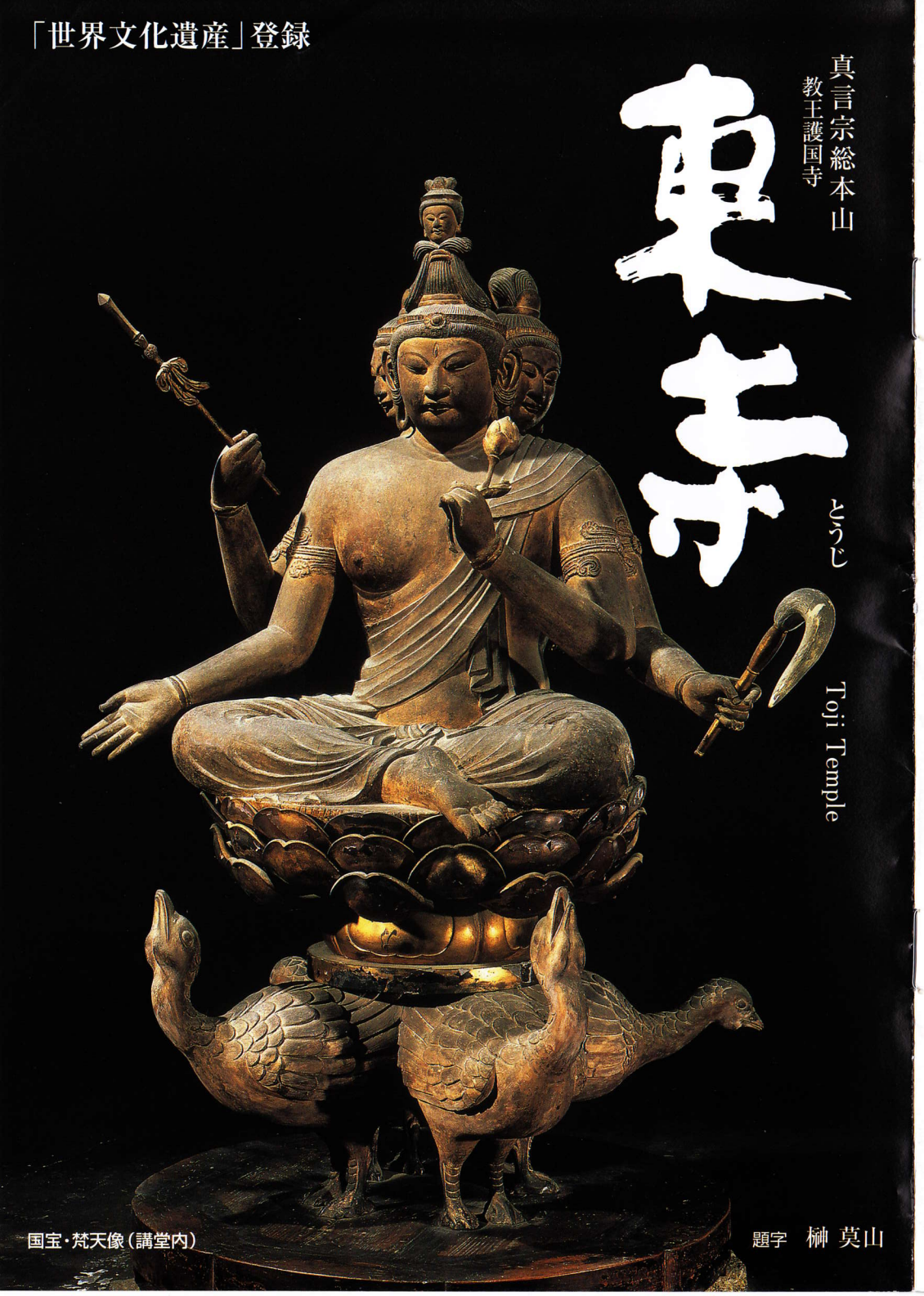
「世界文化遺産」登録

真言宗総本山
教王護国寺

東寺

とうじ

Toji Temple



国宝・梵天像（講堂内）

題字　榊 莫山

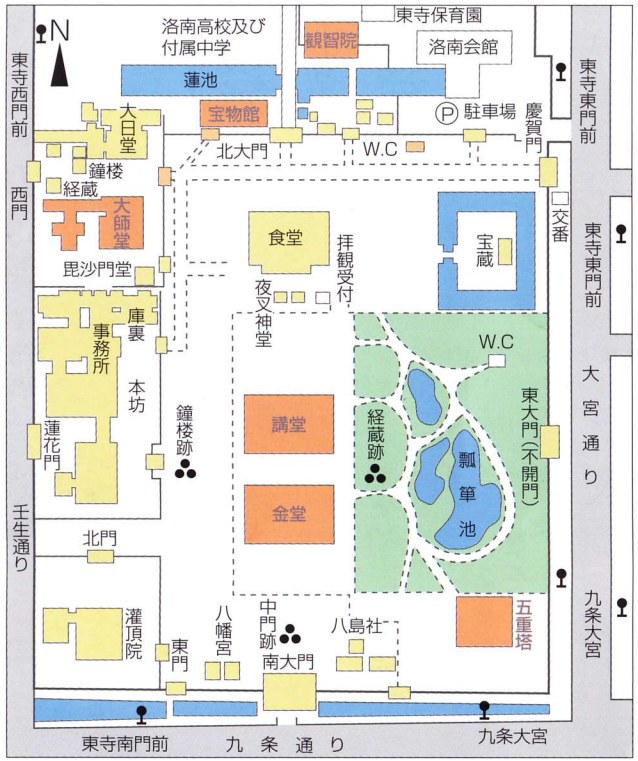
●拝観時間

午前8時00分～午後5時00分
〈午後4時30分受付終了〉

●東寺塔頭観智院

国宝・宮殿
宮本武蔵障壁画等
午前9時00分～午後5時00分
〈午後4時30分受付終了〉

●東寺境内案内図



●ライトアップ夜間特別拝観

春　期／3月中旬～4月中旬
秋　期／10月下旬～12月上旬

●宝物館特別公開

春　期／3月20日～5月25日
秋　期／9月20日～11月25日

●東寺の年中行事

初　詣（五重塔初層公開）	1月1日～5日
修正会（生玉宝印授与）	1月3日〈午後1時より〉
後七日御修法	1月8日～14日
初弘法	1月21日
講堂修正会	1月28日〈午前10時より〉
鎮守八幡菩薩会	春・3月15日　秋・11月15日〈午前10時より〉
彼岸会	春・3月21日　秋・9月21日
正御影供	4月21日　灌頂院絵馬（朱馬）ご開帳
降誕会	6月15日〈午前10時より〉
万灯会（盆踊り）	8月15日〈午後6時より〉
終い弘法	12月21日
大般若会	4・5・7月1日〈午前10時より〉
布薩会	9・10・12月15日〈午後2時より〉
御影供	毎月21日〈午前10時より〉
骨董市	毎月第1日曜日
弘法市	毎月21日

総真言宗本山 東寺 東寺
TEL（075）662-0173〈拝観受付〉
TEL（075）691-3325（代）FAX（075）662-0250
〒601-8473　京都市南区九条町1番地

重要文化財・金堂内薬師三尊・十二神将

国宝

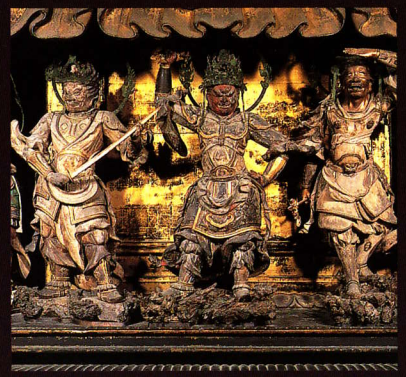
金堂

桃山時代

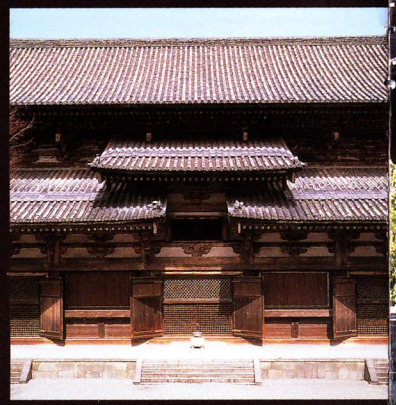
金堂は東寺一山の本堂です。文明十八年（一四八六）に焼失し、今の堂は豊臣秀頼が発願し、片桐且元を奉行として再興させたもので、慶長八年（一六〇三）に竣工しました。天竺様の構造法を用いた豪放雄大な気風のみなぎる桃山時代の代表的建築ですが、細部には唐・和風の技術も巧みにとり入れています。

金堂・薬師三尊・十二神将

金堂本尊の薬師如来坐像と日光、月光の両脇侍菩薩像です。光背上には七軀の化仏を配して七仏薬師をあらわし、台座の周囲には十二神将像を配しています。これら三尊像は桃山時代の大仏師康正の作で薬師信仰の形をとどめています。



重要文化財・十二神将



◎日光菩薩
◎薬師如来
◎十二神将
◎月光菩薩

金堂内諸尊配置図　◎重文

国宝・五重塔

国宝

五重塔

江戸時代

東寺の象徴として広く親しまれている五重塔は、天長三年（八二六）弘法大師の創建着手にはじまりますが、雷火などによって、焼失すること四回におよんでいます。現在の塔は正保元年（一六四四）徳川家光の寄進によって竣工した総高55ｍの、現存する日本の古塔中最高の塔です。全体の形もよく、細部の組ものの手法は純和様を守っており、初重内部の彩色も落着いて、江戸時代前期の秀作です。

心柱を囲む四仏坐像

国宝・梵天

国宝・帝釈天

国宝・不動明王

重要文化財・大日如来

講堂・立体曼荼羅

堂内の白亜の壇上には大日如来を中心とした五智如来をはじめ、五菩薩、五大明王、四天王、梵天、帝釈天の二十一軀の仏像が安置されています。
これは弘法大師の密教の教えを表現する立体曼荼羅（密厳浄土の世界）です。
中でも平安時代前期の十五軀はわが国の密教彫刻の代表作です。

立体曼荼羅

〈菩薩部〉
◉金剛薩埵　◉金剛宝
◉金剛波羅密多菩薩
◉金剛業　◉金剛法

〈如来部〉
◎阿閦　◎宝生
◎大日如来
◎不空成就　◎阿弥陀

〈明王部〉
◉金剛夜叉　◉降三世
◉不動明王
◉大威徳　◉軍荼利

◉多聞天　◉梵天　◉持国天
◉広目天　◉帝釈天　◉増長天

講堂立体曼荼羅諸尊配置図　◉国宝 ◎重文

重文

講堂

室町時代

講堂は、天長二年（八二五）弘法大師によって着工され、承和二年（八三五）頃には完成しました。
その後大風や地震で大破し、度々修理を重ねてきましたが、文明十八年（一四八六）の土一揆による戦火で焼失しました。
現在の講堂は延徳三年（一四九一）に再興された建物で、旧基壇の上に建てられ、様式も純和様で優美な姿を保っています。

立体曼荼羅

身は高野 心は東寺に おさめをく

大師の誓い 新たなりけり

延暦十三年(七九四)桓武天皇は、動乱の中に奈良から長岡京を経て平安京へと都を遷され、羅城門の東西にそれぞれ大寺を置かれました。

現在の京都は御所をはじめとして大部分が東方へずれてしまっていますが、東寺はもとの場所にそのまま残っていて一級史蹟に指定されています。東寺は左寺とも申しますが本格的に活動を始めたのは弘法大師の造営以後であります。このお寺にはアシヨーカ王以来の伝統に従って、仏法によって国の平和が護られ、その光が世界の隅々にまでいきわたるようにということと、それぞれの思想が共に侵さず共存していく原理を見出し伝え、共々に力を合わせ実現されていくようにとの大師の願いが込められています。

東寺の伽藍は南大門を入って金堂・講堂、少し隔てて食堂が一直線に置かれ、左右に五重塔と灌頂院が配置されています。塀で区別された境内はそのまま曼荼羅であり密厳浄土であります。我々はそこから様々なメッセージを汲み取ることができます。

大師はまた高野山を自らの修禅の場として開かれ、そこで得られた智慧を利他行として東寺で実践されました。生老病死に代表される衆生の苦悩の解決法とその生活への表現が大師の一生でありました。

大師は祈りなき行動は妄動であり、行動なき祈りは妄想であるとの信念から、水なき所に池を掘り、橋なき所に橋をかけ、道なき所に道をつけ、食の乏しき者には食を得る方法を教え、病む者のために良医となられたのであります。

「弘法さん」は毎月21日、大師の命日に催される京の風物詩。境内には千軒以上の露店が並び、20万人以上の人出でにぎわいます。これは大師に寄せる民衆の信仰の深さを表しているといえましょう。

東寺は創建以来千二百年の間に幾度も台風、雷火、兵火等の災害を受け、堂塔の大半を焼失しましたが、その都度、一般民衆の信仰の力によりもとの姿に再建され、とくに五重塔は古都の玄関の象徴として昔の姿をそのままに伝えて今日に至っております。

また大師の遺品をはじめとする、国宝・重要文化財は国民の宝であります。一人でも多くの方がご参拝下さって平安文化との出会いを通し今の自分を見つめ直し、明日への新しい糧を得ていただければ幸いであります。

東寺略年表

延暦十三(七九四)	平安京に遷都する
延暦十五(七九六)	東寺の造営が始まる
延暦二十三(八〇四)	空海唐に留学する
大同元(八〇六)	空海真言密教を学び帰朝する
弘仁十四(八二三)	空海東寺を賜わる
天長二(八二五)	空海講堂および講堂諸尊の造営を始める
天長三(八二六)	空海五重塔の造営に着工する
承和二(八三五)	三月二十一日空海高野山に入定する
承和六(八三九)	講堂諸尊の開眼供養する
元慶七(八八三)	五重塔完成する
寛平七(八九五)	食堂に千手観音像造立する
延喜二十一(九二一)	「弘法大師」の名を贈られる
天喜三(一〇五五)	五重塔落雷のため焼失する〈一度目の火災〉
建久八(一一九七)	文覚上人東寺を修造する・運慶一門講堂諸尊を修理する
天福元(一二三三)	大師堂(御影堂)の弘法大師像(仏師康勝作)造立する
建武三(一三三六)	足利尊氏本陣を東寺に置く
文明十八(一四八六)	伽藍焼失する〈五重塔・大師堂など残る〉
延徳三(一四九一)	講堂の再建を始める
明応六(一四九七)	講堂の大日如来像を再建する
永禄十一(一五六八)	信長入京し東寺を宿所とする
文禄五(一五九六)	講堂など大地震により大破する
慶長三(一五九八)	北政所、講堂を修復する
慶長四(一五九九)	豊臣秀頼、片桐且元を奉行として金堂の再建に着手する
慶長八(一六〇三)	金堂の薬師三尊像(仏師康正作)新たに作られる
寛永十二(一六三五)	金堂完成する〈現在に至る〉
寛永十八(一六四一)	五重塔焼失する〈四度目の火災〉
正保元(一六四四)	徳川家光の発願により塔の再建を始める
	五重塔完成する〈現在に至る〉

国宝 大師堂

西院御影堂 南北朝時代

西院は伽藍の西北部にあり、弘法大師の住房で、大師の念持仏、国宝・不動明王像(秘仏)一軀が安置され不動堂ともよばれていました。

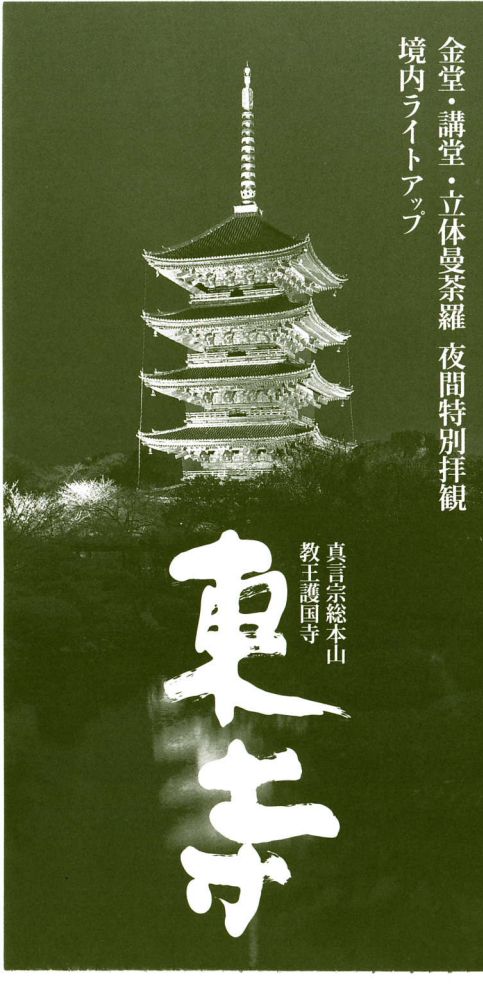
康暦元年(一三七九)焼失しましたが、その翌年には再建され、さらに十年後の明徳元年(一三九〇)には北側に国宝・弘法大師像を拝するための礼堂と中門を加え現在の姿となりました。

堂内には不動明王と弘法大師像が祀られ、弘法大師信仰の中心となっている御堂です。

入母屋造りの礼堂、切妻の中門、ゆるやかな勾配の総檜皮葺の屋根がその優美さを際立たせています。

国宝・弘法大師像

金堂・講堂・立体曼荼羅 夜間特別拝観
境内ライトアップ



真言宗総本山
教王護国寺

東寺